

2023 年度

事業報告書

自 2023 年 1 月 1 日

至 2023 年 1 2 月 31 日

公益財団法人 ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン

目 次

財団の概要（基本理念と事業）	3
公益目的事業 1：ハウス運営事業.....	6
公益目的事業 2：ボランティア普及啓発事業	9
公益目的事業 3：シェア・ハート・フォー・シック・キッズ事業	11

*本資料における当財団名の略称表記：

公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン：DMHC

財団の概要（基本理念と事業）

財団の目的

困難な病気を患っている児童及びその家族を支援するため、必要とされている医療施設の近くに安価で滞在できる施設を設置・運営することによって小児医療や家庭の福祉に貢献し、医療分野や福祉活動等におけるボランティア活動を推進する為の助成活動・啓発活動を行なうことにより、わが国の医療・福祉への支援体制の確立に寄与すること。

財団のミッション

『入院している子どもたちとそこご家族がよりよい生活をおくれるようにサポートする』

財団ミッションにより下記に寄与する。

- ハウスの建設・運営による患児と家族の支援
- ボランティア文化の醸成
- 医療を社会で支える仕組み作り

ファミリー・センタード・ケアを支える DMHC

子どもを取りまく医療において、患者とその家族の支えとなり多様なニーズを満たしていくために重要視されているのが、ファミリー・センタード・ケア。これは、家族も子どものケアに関わるチームの重要な一員であり、子どものケアや治療方針などの意思決定に参加することを大切にする「家族を中心としたケア」という考え方である。このファミリー・センタード・ケアを実行・推進するためには、社会全体で家族・医療を支える必要があり、その支援の輪においてドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンは非常に大きな役割を担っている。

私たちは、子どもたちに直接医療を提供することがミッションではないが、子どもを看病するご家族に滞り場所ときめ細やかなサポートを提供することを通じて、ファミリー・センタード・ケアをはじめとする効果的な医療の実現に貢献し、病気の子どもとそこご家族により多くの笑顔をお届けする。

財団の事業とその概要

1. ハウス運営事業

病気の子どもたちとその付き添い家族のための滞在施設および休息場所の設置、管理・運営等に関する事業

＜背景と概要＞

難病の子どもたちとその家族は、高度医療を受けるためには特定の小児病院に入院せざるを得ず、日常の生活圏から離れた場所での宿泊費その他の不可避な支出を強いられる。長期にわ

たる継続的な入院や治療は、所得を圧迫することになり、ましてや低所得の家庭においては、生活困難に直接結びつくことになる。また、乳幼児期の子どもにとって、両親から離れての入院治療を行うことは、その精神の健全な発育の妨げとなり得るものと考えられる。

ハウス運営事業は、難病の子どもたちとその家族の経済的・精神的な負担をやわらげ、日常生活圏から離れても家族が頻りに触れ合うことのできる生活環境を提供することにより、安心して高度医療を受ける機会を与え、児童又は青少年の健全な成長と育成に寄与している事業である。

<主な事業内容>

① ドナルド・マクドナルド・ハウスの開設と運営

- ・ 主に高度医療を提供する小児病院や（参考指標：小児病床 100 床以上、ICU 等 20 床以上）、小児がん拠点病院等に隣接して、入院・通院している子どもたちとその付き添い家族が滞在できる施設を建設・運営する。
- ・ 1 人 1 日 1,000 円の利用料金で経済的負担を軽減し、リラックスした環境の中、ボランティアや他の家族とコミュニケーションをとることで精神的にも安らげる場所を提供する。
- ・ 寄付金とボランティアにより運営する。

② ドナルド・マクドナルド・ファミリールームの開設と運営

- ・ 主に高度医療を提供する小児病院（参考指標：小児病床 100 床未満、ICU 等 20 床未満）の病棟内に設置して、入院中の子どもたちの付き添い家族が休息できる場所を開設・運営する。
- ・ 利用は無料で、院内環境とは異なり、ご家族がリラックスし、食事やおやつを食べたり、昼寝をしたり、院内のストレスから解放される場所を提供する。
- ・ 寄付金とボランティアにより運営する。

2. ボランティア普及啓発事業

病気の子どもたちとその付き添いご家族を支援するボランティアの普及・啓発活動および、ボランティア育成の事業

<背景と概要>

ハウスを必要とする子どもたちとご家族が、「第二のわが家」として安らぎにかつ安心して利用していただくためのハウス運営は、ボランティアの支援無くしては成り立たない。そのためにはハウスの活動を広く周知し、ハウスの意義に共感し難病の子どもたちとご家族に心を寄せて支援いただけるボランティアを募集し育成していく必要がある。

ボランティア活動はあくまで個人の自発的な意思に基づく自主的な活動であるが、ボランティア個人の自己実現への欲求や社会参加意欲が充足されるだけでなく、その活動の広がりによって、社会貢献や福祉活動等への関心が高まり、地域で小児医療を支える体制づくりや、共に支え合う地域社会づくりの浸透に大きな意義を持つ事業と言える。

<主な事業内容>

① ハウスボランティアの募集および育成

- ・ 全国のハウスでボランティアを募集、ハウスを活動の場として育成する
- ・ ボランティアフォーラムの開催を通じてマインドを育てる
- ・ 企業ボランティアや学生ボランティアを募り、活動の場を広げる
- ・ ボランティアマインドの醸成と啓発：ボランティアの意義（自発的な意思に基づき他人や社会に貢献する行為）と4つの原則（「自主性・主体性」、「社会性・連帯性」、「無償性・無給性」、「創造性・開拓性・先駆性」）

② ボランティア活動の周知

- ・ 病気の子どもたちやそのご家族にとって、自分たちを支援してくれるボランティアの存在を知ることとは、「ひとりではない」、「支えてくれる方々がいる」、と感じてもらえることであり、周知していくことはとても大切なことである。
- ・ ボランティア活動を SNS 等で発信、および情報誌や年間報告書にて紹介する

3. シェア・ハート・フォー・シック・キッズ事業

入院・通院している子どもたちの QOL を向上させ、病気の子どもたちに笑顔を届けることを目的とした事業

<背景と概要>

入院治療を余儀なくされた子どもたちにとって、病棟での体験は非日常的なものであり、なじみのない医療施設や医療スタッフ、苦痛を伴う医療的処置、治療から生じる外見上の変化など、入院する前の日常生活と分断された感覚をもちやすくなる。このことは身体面のみならず、心理社会面において、多くの喪失やその予期を伴うために、怒り、不安、抑うつなどの感情をもたらす。入院治療中は、自分で何かを選択したり、決定することが許されにくい環境であるために、子どもたちのコントロール感が低下したり、無力感が生じることがある。また、集団での活動が制限されやすい病棟生活では、本来子ども同士が関わることで育まれる社会性の獲得が妨げられやすくなる。入院中の子どもたちに対して、喜びとなるギフトを届けることや学習・体験のプログラムを提供することは、子ども同士が関わることで得られやすい感情を体験したり、対人関係の中で自分の言動を調整する力や集団におけるルールを学習するなど、今後の社会生活に求められるスキルの獲得の機会として重要な役割を担う事業となる。

同様に、子どもの看病に付き添う家族に対しても、日常生活を顧みることができる支援をすることは、看病のストレスから解放されリフレッシュすることで子どもの治癒効果が高められると考えられる。

<主な事業内容>

- ・ ハートフルカートとして、入院している患児と付き添い家族を対象に、小さな文具や玩具、日用品などを配布
- ・ 入院している患児と付き添い家族に対する体験活動の提供（オンライン体験プログラム）
- ・ 患児が実際に体験できる活動の提供（参加型の体験プログラム）

公益目的事業 1：ハウス運営事業

病気の子どもたちとその付き添い家族のための滞在施設および休息場所の設置、管理・運営等に関する事業

＜事業費＞

2023 年 413,577,367 円

＜事業状況＞

1. ドナルド・マクドナルド・ハウスの運営

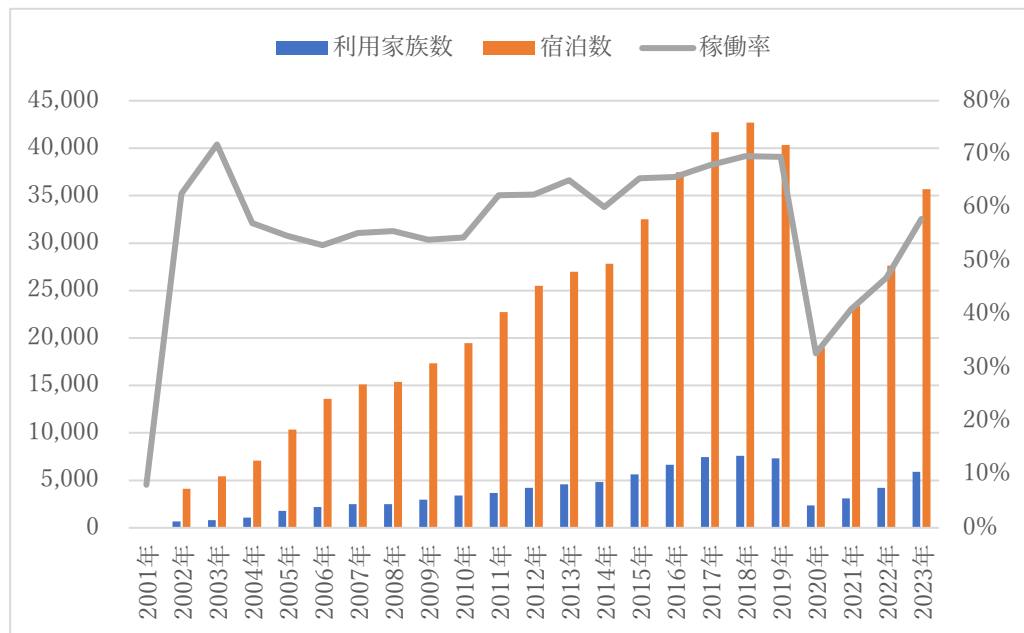
新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行後、各提携病院においても感染対策が徐々に緩和され、ハウスの稼働も回復傾向にある。

利用家族数は 5,886 家族と、2022 年に対して 139%と増加しているが、コロナ禍以前の 2019 年に対しては 80%に留まっている。全ハウスの平均稼働率は 58%で 2022 年の 47%に対して上昇。

① 2023 年ハウス別 運営状況（全国で 12 ハウス、169 部屋を運営）

	部屋数	利用家族	利用人数	宿泊数	稼働率
全ハウス総計	169	5,886	12,374	35,701	58%
せたがやハウス	23	891	1940	6402	76%
せんだいハウス	16	806	1,679	2,478	42%
おおさか健都ハウス	20	373	703	2,764	38%
とちぎハウス	10	211	467	1,467	40%
さっぽろハウス	10	465	1,104	1,931	53%
ふちゅうハウス	12	422	877	2,982	68%
東大ハウス	12	365	677	2,523	58%
なごやハウス	12	437	1,027	3,172	72%
ふくおかハウス	21	623	1,350	3,436	45%
神戸ハウス	16	598	1,232	4,265	73%
さいたまハウス	7	339	615	2,219	87%
にいがたハウス	10	356	703	2,062	56%

利用家族数・宿泊数・稼働率の推移（2001～2023 年）



② ハウス修繕（予算総額：111,114 千円）

ハウス名	修繕内容	実績（千円）	予算（千円）
せんだいハウス	リフレッシュ工事（外構・外装・内装、2 室 バリアフリー化、設備交換・補修ほか）	81,983	100,114
さっぽろハウス	リフレッシュ工事（屋上防水、他改修）	12,716	11,000
総額		94,699	111,114

2. ドナルド・マクドナルド・ファミリールームの運営

日本初のドナルド・マクドナルド・ファミリールームを東京都府中市にある榊原記念病院内に「ドナルド・マクドナルド・ファミリールーム 榊原記念病院」（以下榊原記念病院 FR）として開設し、2023 年 12 月 8 日から利用開始。

2023 年 12 月利用状況

	利用家族	延べ利用回数	延べ利用時間	平均利用時間
榊原記念病院 FR	74	733 回	157 時間 49 分	12 分 55 秒

ハウス・ファミリールーム施設一覧

	ハウス名	開設年月	住所	連携病院
1	せたがやハウス	2001 年 12 月	東京都世田谷区大蔵 2-1 0-1 0	国立成育医療研究センター
2	せんだいハウス	2003 年 11 月	宮城県仙台市青葉区落合 4-5-3	宮城県立こども病院
3	おおさか健都ハウス	2005 年 10 月	大阪府摂津市千里丘新町 5-3 0	国立循環器病研究センター
4	とちぎハウス	2006 年 9 月	栃木県下野市祇園 2-3 6-3	自治医科大学とちぎ子ども医療センター
5	さっぽろハウス	2008 年 12 月	北海道札幌市手稲区金山 1 条 1-2-5	北海道立子ども総合医療・療育センター
6	ふちゅうハウス	2010 年 3 月	東京都府中市武蔵台 2-9-2	東京都立小児総合医療センター
7	東大ハウス	2012 年 1 月	東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学構内	東京大学医学部附属病院
8	なごやハウス	2014 年 1 月	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町 6 5	名古屋大学医学部付属病院
9	ふくおかハウス	2015 年 5 月	福岡県福岡市東区香椎照葉 5-1-2	福岡市立こども病院
10	神戸ハウス	2016 年 5 月	兵庫県神戸市中央区港島南町 1-6-7	兵庫県立こども病院
11	さいたまハウス	2016 年 12 月	埼玉県さいたま市中央区新都心 1-2	埼玉県立小児医療センター
12	にいがたハウス	2022 年 10 月	新潟県新潟市中央区旭町通一番町 756-9	新潟大学医歯学総合病院
	ファミリールーム名	開設年月	住所	連携病院
1	榊原ファミリールーム	2023 年 12 月	東京都府中市朝日町 3-16-1	榊原記念病院

公益目的事業２：ボランティア普及啓発事業

病気の子どもたちとその付き添いご家族を支援するボランティアの普及・啓発活動および、ボランティア育成の事業

<事業費>

2023 年 10,418,839 円

<事業状況>

コロナ禍における病院およびハウスの利用制限により、コロナ禍以前に比べるとボランティア数は減少しているが徐々に増加傾向にある、主に離脱されているのは高齢層（70-80 代）のボランティアで、生活サイクルの変化と感染リスクというのが主な理由。反面、若年層（10-20 代）の学生ボランティアと企業・団体ボランティアの活動が回復し、頻度も増加している。

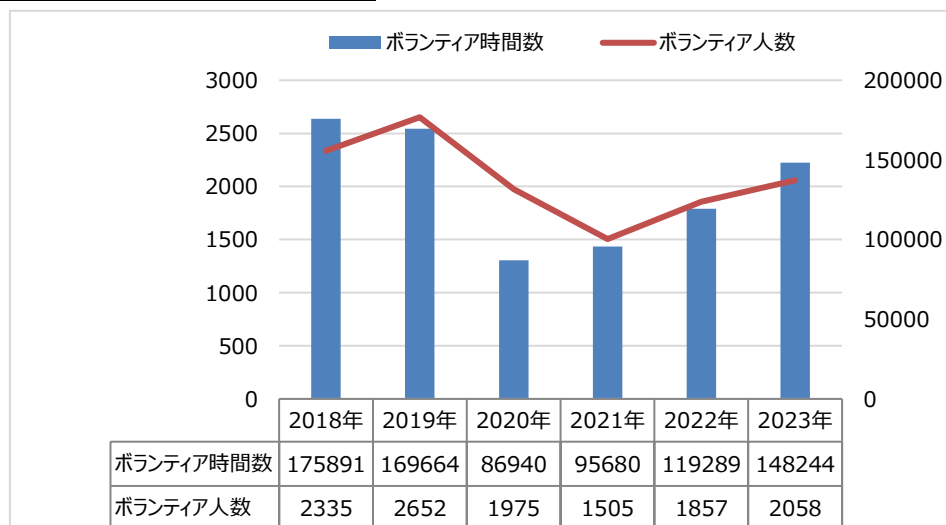
2023 年年間のボランティア時間数は 148,244 時間、12 月末のボランティア登録者数は 2,058 名となり、前年比較で約 200 名増加している。

① ボランティアの募集および育成

ハウス別ボランティア活動状況

ハウス名	2023 年 12 月末 登録人数	年間時間数
総計	2,058	148,244
せたがやハウス	196	13,675
せんだいハウス	146	11,156
おおさか健都ハウス	178	14,713
とちぎハウス	147	9,584
さっぽろハウス	169	15,068
ふちゅうハウス	151	10,384
東大ハウス	222	14,774
なごやハウス	154	12,112
ふくおかハウス	131	11,564
神戸ハウス	144	9,390
さいたまハウス	195	13,299
にいがたハウス	225	12,525

ボランティア時間数・ボランティア人数の推移



企業ボランティア活動状況

	回数	具体的内容
企業によるボランティア活動	112 回	清掃、ミールプログラム、マッサージ施術、PC サポート、寄付品

募集・育成の活動

- 全国 12 のハウス毎に、その地域内にハウス周知とボランティア募集を展開。主な募集媒体は、各行政区の広報誌、近隣大学やボランティアサポートセンター
- またはハウス毎に SNS での発信により、地域住民や学生に訴求
- ボランティア育成のために、ボランティア心得や活動における原則を記載したボランティア手帳を作成し、ボランティアに対して 2,206 部を配布
- ハウス毎に、永年継続ボランティアへの表彰と記念品を授与、特に周年記念のせんだい、さっぽろ、なごやハウスでは感謝の集いを開催

② ボランティア活動の周知

- ハウス毎に SNS やニュースレターでボランティア活動や情報を発信する。イベント企画や結果報告等は SNS にて随時発信
- 2022 年年間報告書を 2023 年 4 月に発行しホームページに掲載、また冊子として 4,000 部製作し配布
- 企業・団体への講演
 - 新規の企業・団体に対して、財団・ハウスおよびボランティア活動の紹介とボランティアプログラム参加への誘致を実施：15 企業・団体/約 300 名

公益目的事業3：シェア・ハート・フォー・シック・キッズ事業

入院・通院している子どもたちの QOL を向上させ、病気の子どもたちに笑顔を届けることを目的とした事業

<事業費>

2023 年 303,099 円

<事業状況>

- ・ ハートフルカートは現在 15 病院に導入し、年間 10,266 人をサポート。（2022 年、5,650 人サポート）病院の感染対策状況によってハートフルカートの実施エリア（病棟内、病室、外来）は異なるが、活動は活発化している。
- ・ 各ハウスと支援企業との連携によりオンライン体験プログラムを開発・制作し実施。（飛行機整備工場見学、菓子製造工場見学、乳製品工場見学、学習会のオリジナル教材作成・提供など）
- ・ 支援企業からリアルな体験イベントを提供いただき、寛解の子どもとその家族を招待。（京成電鉄による京成スカイライナーで成田空港見学、キャンプ体験プログラム、職業体験施設など）

	シェアハート 総数	ハートフル カート	グッズ プレゼント	体験プログラム		その他支援	
総計	21,739	10,266	6,154	4,124		1,165	
せたがやハウス	3,896	1,318	2,200			278	ひつじの家・もみじの家
せんだいハウス	583	123	240	109	夏祭りサポートグッズ	111	東北大学病院支援
おおさか健都ハウス	640	100	320	110	JAL 整備工場見学	110	折鶴プロジェクト
とちぎハウス	1,608	297	1,275			36	病児保育の家族
さっぽろハウス	2,213	963	1,250				
ふちゅうハウス	1,729	931		780	院内イベント	18	ハートフルバスポート
東大ハウス	2,254	786	501	967	動画配信	70	
なごやハウス	1,979	450	210	1,169	写真撮影	150	子どもの絵カレンダー
ふくおかハウス	1,092	1,092					
神戸ハウス	1,481	1,481					
さいたまハウス	2,845	1,603	158	989	読み聞かせ	95	
にいがたハウス	682	385				297	総合病院・がんセンター
静岡県立こども病院	193	193					
京都府立医科大学病院	296	296					
京都大学病院	248	248					